

第400号 12月号 2017.12.20

岐阜県

商店街だより



発行元：岐阜県商店街振興組合連合会 岐阜市藪田南 5-14-53 TEL：058-277-1107

うだつの上がる町並み全体で楽しめる買物体験 みの町家マーケット

◆主催：美濃俵町商店街振興組合 ◆共催：美濃デザインチーム

■うだつの上がる町並み全体がマーケットに

美濃の観光名所として知られる、うだつの上がる町並み。東西方向の2筋の街路と、南北方向の4筋の横町からなるこの地区は、今も歴史的景観が現存されていることから、平成11年に「伝統的建造物群保存地区」に選定されています。その由緒ある町並みを舞台として、美濃俵町商店街振興組合が主催するイベント「みの町家マーケット」が11月4日（土）に初めて開催されました。



▲初開催となる「みの町家マーケット」

今回のイベント開催の経緯について、美濃俵町商店街振興組合の日比野理事長にお伺いすると、「『美濃・町家あきんど祭り』というイベントを当組合だけで1年おきに行っていたのですが、今年は行政からの要請もあったことから、うだつの上がる町並み全体に広げてやろうということで声掛けして、今回のイベント開催に至り

ました。」と話してくださいました。

イベント当日は、30店舗以上の参加店が100円にちなんだ商品・サービスを提供する100縁商店街や、美濃和紙の手すき体験といったワークショップ、更にはキッズパークと題してロングボウリングやキャタピラーレースが開かれるなど盛りだくさんの内容。美濃和紙の手すき体験の会場では、スタッフの説明に耳を傾ける来街者の姿が多く見られました。



▲手すき体験の説明を聞く来街者

また、キャタピラーレースでは、子供たちがダンボールキャタピラーの中に入り、早くゴールにたどり着けるか競い合う姿が見られました。簡単そうな競技に見えますが、意外とまっすぐ進むのが難しいこのキャタピラーレース。参加した子供たちの中には、あらぬ方向へと一生懸命キャタピラーを進ませる子もいて、その微笑ましい様子に会場は笑いに包まれていました。

みの町家マーケットの参加店に目を向けてみ



▲真剣勝負のカタピラーレース

ると、100縁商店の他、イベント応援店・ワークショップ・町家ショップという4つのカテゴリーに各参加店が分類されており、そのうちの町家ショップと題された店舗では、若者が雑貨やハンドメイドの小物などを販売していました。

この町家ショップについて美濃商工会議所の九野さんにお話を伺ったところ、「普段は人が住んでいたり空き家になっていたりした建物を1日限定のチャレンジショップのような形で活用し、そこに美濃以外の出店者の方が出店しています。そうした店舗のことを町家ショップと呼んでいます。このイベントの趣旨の1つとして、空き家や空き店舗の活用方法の模索があるので、今回の出店を機に、後々はここでお店をやりたいと思ってもらえる方が出てくるといいなと思います。」と、今回の町家ショップの試みに対する期待感をにじませていました。



▲若者の熱気があふれる町家ショップ

■空き店舗の過去・未来に思いを馳せること

今回のイベントでも着目された空き店舗。その空き店舗が多くなっている商店街は、活気がないなどとマイナスイメージで見られがちです。確かに商店街でシャッターが一日中閉まっている店舗が多いと通行量もあまり期待できませんし、また地域に安心・安全を提供する商店街の機能も発揮されにくくなってしまいます。更に、空き店舗そのものも単に老朽化した建物として捉えられやすいことから、それ自体が商店街に価値を提供していないと感じる方もいらっしゃるかもしれません。

空き店舗が商店街に価値を提供していないと捉える考え方があるとしたら、それは現時点のみを切り取って評価していることが要因だと考えられます。

昔は賑わいがあり、そこかしこのお店が繁盛していたと言われることが多い商店街。そこには日々お客さまのニーズに応えるために、一生懸命商いを営んできた商店主の方々がありました。今は明かりが灯っていない空き店舗にも、そうした過去があるのです。それを昔の話だと切って捨てるのではなく、物語として現代に蘇らせること。そうすることで、空き店舗にも新たな魅力が生まれてきますし、商店街にとっても空き店舗が付加価値を与えてくれる存在になってくれることでしょう。

空き店舗の将来に目を移せば、そこにどのような業種のお店を誘致するかというのは、商店街全体の色合いを決定する重要なファクターとなります。そもそも中々出店者が見つからなかったり、仮に見つかったとしても空き店舗の所有者の理解が必要になったりするなど、一筋縄ではいかない場合も多々あります。それでも個々の商店街が置かれた状況を踏まえ、空き店舗のあるべき姿を考えることは商店街の未来を考えることに通じます。

空き店舗の過去を振り返るとともに、現在地点からその未来を考え抜くこと。

それは、空き店舗が持つ価値を見出すとともに、新たな商店街像への戦略を考える創造的な活動と言えるのです。

バスを利用した未来の商店街空間への試み BRTトランジットモール

◆主催：岐阜市 ◆協力：岐阜市商店街振興組合連合会・岐阜乗合自動車株式会社

■岐阜市中心部の道路空間を人とバスに開放

秋も深まる11月。紅葉シーズンも本番を迎え、鮮やかな色彩に彩られた山々が私たちの目を楽しませてくれます。そんな中、岐阜市の三大通りの一つである長良橋通りでも、JR岐阜駅～ぎふメディアコスモスを結ぶ区間において現れた鮮やかな赤色のものが、人々の目を惹いていました。

それは、赤く色づいた木々・・・ではなく、赤いバス(!)。

この赤いバスは、11月18日(土)・19日(日)の両日に岐阜市内で開かれた「BRTトランジットモール」(以下「トランジットモール」といいます。)というイベントにて使われていた車両なのでした。

トランジットモールでは、長良橋通り上の神田町3丁目～6丁目における片側2車線の区間にて一般車両の通行を規制。その上で、中央線寄りの第2車線を路線バスが走行し、歩道寄りの第1車線を賑わい空間として開放することで、公共交通の利用促進と中心市街地の賑わい創出を図る取り組みです。

先ほどの赤いバスも、「トランジットモールシャトルバス」という名前で第2車線を走行していました。100円で乗車できる安価な料金設定、車体の鮮やかな赤色以上に目を惹いたのがその長さ。2つのボディを連結器でつないだ「連節バス」という珍しい車体を採用しており、日本では導入例が少なく希少な存在なんだそうです。なお、こうした連節バスのような車両の高度化に加え、バスレーンの導入などで走行環境を改善し、バスの定時性や速達性を確保した次世代のバスシステムをBRT(=Bus Rapid Transit)と呼んでいます。



▲トランジットモールシャトルバス

「平成15年にこの神田町界隈で行ったトランジットモールをまたやりたい、と岐阜市に働きかけたことで昨年よりこのイベントが再開されました。一般車両の通行を規制しているので騒音が少なくなっており、安心してお買い物ができる商店街になっていると思います。」と話すのは、岐阜市商店街振興組合連合会の古川洋治理事長。今後はトランジットモールが常設となることを目指したいと、このイベントに対する意欲を示していました。

昨年実施したトランジットモールの分析結果からは興味深い現象が見られています。それは、バスの利用及び来街者交通量が大幅に増加したこと。具体例を1つ挙げれば、トランジットモールを実施した日曜日の来街者数は、何と通常の約4倍に上ったそうです。それを踏まえ、今年度のトランジットモールの開催についても、今後につながる成果が得られることが期待されます。

■市商連主催の「ぎふ信長楽市」

神田町3丁目～6丁目区間のトランジットモールで賑わい空間と位置づけられた第1車線には、市商連主催の「ぎふ信長楽市」として、飲食・物販・市内外の特産品などを取り扱う約50店の仮設店舗が立ち並んでおり、街の賑わいを

演出していました。



▲賑わうぎふ信長楽市

今回のぎふ信長楽市で市商連は「信長公藩札」というプレミアム商品券を販売。価格は2千円・3千円・5千円の3種類で、どれも1割分多く商品券が受け取れます。



▲信長公藩札

有効期限は今年

12月20日までとなっており、ぎふ信長楽市の仮設店舗に加えて、市内の対象店舗でも使用可能なこの商品券。実は1つ驚くべき事実があったのです。

それは、販売枚数に制限がないこと。

このことを古川理事長から伺った際には本当

に驚きました。「この信長公藩札が普及し、店舗が潤ってくればいいなと思っています。売り切れたらどれだけでも増刷しますよ。」と話す古川理事長。その心意気が、地元商店街の活性化にしっかりつながっていくといいなと感じました。

■今年で織田信長公岐阜入城・岐阜命名450年

市商連が販売するプレミアム商品券の名前に登場した織田信長公。JR岐阜駅の北口広場には黄金の織田信長公像が建っており、岐阜と信長公の関係の深さを物語っています。実は、今年はその信長公が1567年に岐阜に入城し、岐阜と命名してから450年という節目の年に当たります。

そこで岐阜市では、今年実施する周年事業を通して「信長公ゆかりのまち・岐阜市」を都市ブランドとして発信し、将来にわたる観光振興・地域活性化を目指す「岐阜市信長公450プロジェクト」を推進してきました。周年事業の数は、協賛事業なども含めると数十は下りません。非常に多くの事業が今年集中して開催されたこととなります。

トランジットモールの賑わいも少なからずその恩恵を受けていることでしょう。しかし、市をあげてのこの一大プロジェクトも今年で終了となります。こうした宴の盛り上がりを次にどうつなげていくのか、トランジットモールを含めた市商連の今後の事業戦略に注目が集まります。

こだわりのミートソースがテレビで大好評！ 喫茶たなか（中津川新町商店街振興組合）

■近年テレビに引っ張りだこの喫茶店

中津川市の中心市街地にある新町商店街。そこにお店を構えているのは、市内で一番古い喫

茶店である「喫茶たなか」です。創業64年を迎え、現在は二代目店主の田中三雄さんがお店を切り盛りしています。

店内は4年前に改装されており、木材をふんだんに使った明るく落ち着いた空間となっています。「九州や東北と



▲二代目店主の田中三雄さん

いった遠方から来られるお客様も少なくないため、思い切ってお店を改装しました。」と話す田中さん。つつい長居したくなる、そんなお店です。



▲明るく落ち着いた雰囲気店内

実はこのお店、ある出来事がきっかけでここ数年お客様の数が増加の一途をたどっているそうです。その出来事とは、テレビ番組に立て続けに取り上げられたこと。

ここ2年の間に、東海テレビ「スイッチ！」や中京テレビ「PS純金」・「ゴリ夢中」といった東海地方の番組だけではなく、関西テレビ制作の全国ネット番組「にじいろジーン」にも取り上げられ、一気にその名が全国に知れ渡ったのです。そのおかげで、市内はもとより遠方からもお客様が来店する人気店となりました。

■ひき肉たっぷりの絶品ミートソース

そうしたテレビ番組で「中津川の逸品」として取り上げられ、好評なのが先代から続くミートソース。通常のミートソースの約2倍の牛と豚

の合いびき肉を使い、野菜と牛コッススープで煮込むことにより「肉の食感と食材のうまみ」が出るよう工夫されています。そのミートソースを使って作った自家製の「ミートスパゲッティ」。喫茶たなかの代名詞ともなった名物です。



▲定番の一番人気「ミートスパゲッティ」

このミートスパゲッティに対する二代目・田中さんのこだわりは、必ず五感で味わってもらえるようにしていること。

具体的には、出来たてで湯気が立ち上るミートスパゲッティを「見て」、半熟卵が熱い鉄板の上でじゅじゅじゅつと焼かれる音を「聞き」、湯気の匂いを「嗅ぐ」。そして、実際に食べた時に「食感を感じ」ながら「味わう」。こうした五感で味わってもらうため、熱い鉄板の上に半熟卵を載せたミートスパゲッティが出来上がったなら、すぐにお客様にお出しすることを田中さんは大切にしているそうです。

■評判のミートソースがレトルト化&PV化

このミートソースはレトルトとしてインターネット上で販売されています。また、驚くことにそのプロモーションビデオ(=PV)もあるんです！そのきっかけを作ったのが、ワタナベフラワーという男性3人組バンド。NHK「みんなのうた」に楽曲が選ばれたこともある実力派です。

以前、ワタナベフラワーがライブのため中津川を訪れた時、喫茶たなかに立ち寄りミートスパゲッティを食べたそうです。その美味しさに感動した彼らは、所属会社の社長にもお店のミートソースを紹介。その社長も「これは本当に美味しい！」と感じ、田中さんに直接ミートソースのレトルト化とPVの作成を提案しました。



▲PVでお店の魅力を発信

そして、あれよあれよという間にどちらも実現してしまいました。

ミートソースのPVはお店のホームページから見るすることができます。とても良くできていますので、是非ご覧になってください。

中津川市新町8-13

☎0573-65-2814

営業時間：8:00～18:00

定休日：水曜日

【取材・記事 中小企業診断士 加藤正浩】

株式会社全国商店街支援センター 平成29年度支援事業

■商店街よろず相談アドバイザー派遣事業

本事業は、商店街からの要請に応じ、「商店街よろず相談アドバイザー」を現地に派遣して課題解決やイベント事業などについてアドバイス支援を行うものです。

「商店街よろず相談アドバイザー」は、一般公募による商店街の専門家として支援センターに登録されています。

商店街は、「商店街よろず相談アドバイザー」から、次のアドバイスを受けることができます。

(1) 商店街活性化のための一般相談及びアドバイス

- 商店街活性化に係る課題抽出
- 上記検討のための現状分析
- 課題の特定と商店街活性化に向けた取組みと具体策等

(2) 活性化の企画等のアドバイス

① 活性化策等の策定に係るアドバイス

例) 街並み・景観形成、空き店舗対策(空き店舗活用、チャレンジショップ、テナントミックスなど)

② イベント等集客力向上に係るアドバイス

例) 各種イベント、広告・宣伝、共同売出し

③ その他、活性化に係るアドバイス

例) 顧客の管理事業(ポイントカード事業、スタンプ事業など)、共同宅配サービス
上記①～③に係る次の事項につきましては、本事業ではなく他の支援事業を活用いただく可能性があります。

- 事業計画づくりの方法(事業内容等)
- 事業計画の具体的な進め方
- 事業計画実行上の留意点
- 実施体制づくり
- 資金計画、その他の諸問題について

【募集期間】

平成29年4月3日(月)～

平成30年2月10日(土)

【派遣申込みのできる方】

派遣申込みのできる方は、次の組合等(以下「商店街組合等」)の代表者です。

- ① 商店街振興組合
- ② 商店街の事業協同組合
- ③ 法人格を持たない商店街組織
- ④ 複数の商店街を取りまとめている連合体組織

【問い合わせ先】

株式会社全国商店街支援センター

TEL: 03-6228-3061

岐阜県商店街だよりは、岐阜県からの補助金を受けています。